

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス SOALA小郡南校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2025年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 1月 4日		～ 2025年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	モンテッソーリの教具を使用した、「おしごと」が充実しています。自己選択する力と机上での指先を使う支援が豊富に提供できています。ボタンのつけ外しやシール貼りにて指先の巧緻性向上を図り、円柱差しや二項式では、数や大きさの概念に触れることができます。 このように、多くのモンテッソーリ教具での「おしごと」を経て、就学に向けた身辺自立の成長につながります。	基本的には、自分で選択して意欲的に取り組めるようにしています。時には、保護者の要望やその児童の成長に合わせて職員からおしごとを提供しています。また、最後まで取り組み達成できる成功体験を積むことができるよう、児童に合わせて取り組むことができる難易度を変えています。	他のSOALAの事業所で取り扱っている教具で、良かったものなどを聞き取り小郡南でも取り入れられるものは無いか検討していきます。
2	場面の切り替えを日々経験することで、気持ちの切り替えに繋がっている点です。「朝の会」→「おしごと」→「製作・グループ活動・運動あそび」→「昼食」→「余暇活動」と大きな流れをつくることにより、日々場面の切り替えを経験することができるようにしています。時には予定の変更などを経験して、臨機応変に行動と気持ちを切り替える経験を積むことができるように工夫しています。	場面切り替えに合わせて、声掛けをおこなっています。一度に複数の指示を出しすぎないようにして、児童が理解して行動できるよう配慮をしています。また、先に記載した通り、時には予定の変更を行うことで臨機応変に気持ちと行動を切り替える経験を積むことができるようにしています。	年長児童などは、先の見通しをもって動くことができるように、ホワイトボードなどに予定を書き記し、自分でも確認して自発的に動くこと経験を積めるよう工夫していきます。
3	毎週金曜日にクッキングの日を設けて、食材に触れる食育を行っている点です。苦手な食材についても、自分で簡単な調理を行うことで食べてみようという気持ちを育てることができています。調理の中で、野菜をちぎる、食材を混ぜるなど、クッキングの中でも指先や腕など上肢を使うことを意識できるようにしています。	年齢に合わせて、調理方法を変えています。年長児童などは職員と一緒に包丁に挑戦したり、年中・年少児童は指先を使ったちぎる工程を担当したりと児童に合わせて調理方法や役割を変えています。	食事に使う道具に関しても、基本的に偏りなど出ないようにメニューを考えています。時期などによっては、就学に向けて箸を使うことに重きを置くなど徹底する日を作るなど工夫していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	交流活動では、人数の少なさが感じられています。保育園や幼稚園と併用しているお子さんなどは、13時までの参加が難しいため、少人数での活動になってしまう時があります。	外部への活動の発信の少なさなどが要因として挙げられます。	SNS等を使って、外部に活動の様子を発信し、児童発達支援を使ってみたいと思えるような工夫が必要です。
2			
3			